

OBD検査プレ運用の実施協力をお願いについて

自動ブレーキ等の先進技術については、近年、軽自動車を含む幅広い車両への搭載が進んでおります。これらの技術は、交通事故の防止に大きな効果が期待される一方、故障時には誤作動による重大事故等につながる恐れがあることから、使用過程においても確実に機能維持を図ることが重要であり、また、自動車の検査等を通じた機能確認が必要とされていることから、国が定める自動車検査の検査項目として、車載式故障診断装置を活用した検査（以下「OBD 検査」という。）が令和6年10月以降に新たに追加されます。（OBD 検査対象車両のみ）【P20 の検討会報告書参照】

また、令和5年10月より、新たな検査制度の習熟期間として「OBD 検査プレ運用」が実施されており、OBD 検査システムへのID登録や特定DTC照会アプリにおける実車を活用した「OBD 確認」の実行等が可能となっておりますので、令和6年10月以降のOBD 検査の開始に向けて積極的に取り組んでいただきますようよろしくお願いいたします。

【主なポイント：OBD 検査の対象等】

●対象車両

令和3年（2021年）10月以降の新型の乗用車、バス、トラック^{※1}

【注意】 OBD 検査の対象車両は自動車検査証にOBD 検査対象車両である旨と検査開始時期が記載されますが、車両の登録時期等によっては検査開始時期が後倒しになっている場合がありますので、詳細な検査要否判定は継続検査等の時点で特定DTC照会アプリにて確認する必要があります。

●対象装置

①運転支援装置^{※2}

アンチロックブレーキシステム（ABS）、横滑り防止装置（ESC）、ブレーキアシスト、自動ブレーキ、車両接近通報

②自動運転機能^{※2}

自動車線維持、自動駐車、自動車線変更など

③排ガス関係装置

●検査開始時期

令和6年（2024年）10月^{※3}

※1：認証を受けた自動車に限る。輸入車は令和4年（2022年）10月以降の新型車

※2：保安基準に規定があるものに限る

※3：輸入車は令和7年（2025年）10月

【指定工場の皆様へ】

この新たな制度の円滑な導入のため、令和5年10月から習熟期間として「OBD 検査プレ運用（以下「プレ運用」という。）」が実施されております。指定工場においては、プレ運用期間中に OBD 検査システムへの ID 登録を完了し、検査用スキャンツールを準備した上で、OBD 検査の練習（※4、5）として、特定 DTC 照会アプリによる実車を活用した「OBD 確認」まで実行するとともに、あわせて、運輸局等へ指定自動車整備事業の変更（検査用スキャンツールの追加）の届出を行う等、令和6年10月以降の OBD 検査の開始に備えていただきますようよろしくお願いいたします。

【P21 の指定工場向けチラシ参照】【プレ運用実施の流れは P23 参照】

※4：プレ運用期間中は、「OBD検査モード」では適否の判定まで実行することができないため、適否判定が可能（排出ガス関係装置に限る）な「OBD確認モード」にて練習を行ってください。

※5：プレ運用期間中の特定DTC照会アプリ上の操作については、検査の合否には影響しません。

【認証工場の皆様へ】

認証工場においては、令和6年10月以降の OBD 検査対象車両の持込検査前に OBD 確認を実施することにより、判定結果を事前に確認でき、検査場での OBD 検査が、原則、省略（OBD 確認の有効期間は5日間）されますので、必要に応じて準備をお願いいたします。

【P22 の認証工場向けチラシ参照】【プレ運用実施の流れは P23 参照】

なお、車両診断コネクタへの車両通信インターフェース（VCI）コネクタの確実な接続等、OBD 検査 / 確認を実施する際にご注意いただきたいことについて、P24～P26 に取りまとめましたので、ご一読いただきますようお願いいたします。

また、OBD 検査ポータル「よくある質問」もご参照ください。



OBD検査
ポータル



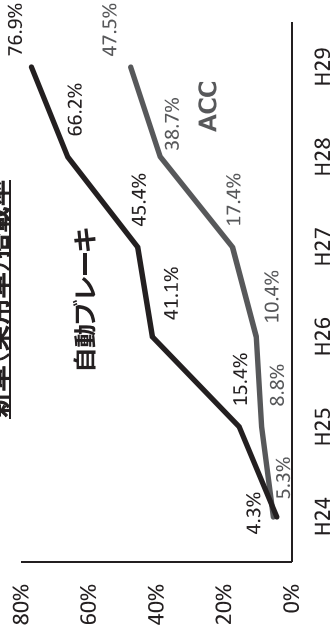
OBD ポータル



車載式故障診断装置(OBD)を活用した自動車検査手法のあり方検討会報告書(概要)

- 近年、自動ブレーキなど自動運転技術の進化・普及が急速に進展しているが、故障した場合には、誤作動による重大事故等につながらず、おそれがあることから、**自動車の検査等を通じた機能確認が必要**。
- 現在の**自動車の検査(車検)**は、外観や測定器を使用した機能確認により行われているが、自動運転技術等に用いられる**電子装置の機能確認には対応していない**。

自動ブレーキ、自動車間距離制御(ACC) 新車(乗用車)搭載率



電子装置の不具合事例

- ACCを使用して高速道路を走行中、突然、機能が停止し、強い回生ブレーキが作動。
⇒ **前方監視用のカメラが偏心していた**
- 上り坂を走行中、自動でブレーキが誤作動し、急減速した。
⇒ **自動ブレーキのレーダセンサの取付角度が設計値より下向きになっていた。**

現在の車検では検出できない不具合

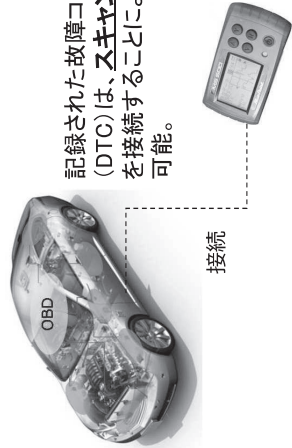
諸外国の状況

- EU**
- 加盟国に対して**電子装置**を含めた検査実施を推奨(EU指令 2014/45EU)。
 - **ドイツ**では2015年よりOBDを用いた検査を開始、段階的に拡大中。
- 米国**
- 33の州・地区においてOBDを活用した**排出ガス検査**を実施中。

車載式故障診断装置(OBD)を活用した自動車検査手法

車載式故障診断装置(OBD)とは

最近の自動車には、電子装置の状態を監視し、故障を記録する「**車載式故障診断装置(OBD: On-Board Diagnostics)**」が搭載されている。



OBDを活用した自動車検査手法

対象

- 2021年以降の新型の乗用車、バス、トラック※1
- ① **運転支援装置**※2
アンチロックブレーキシステム(ABS)、横滑り防止装置(ESC)、ブレーキアシスト、自動ブレーキ、車両接近通報
 - ② **自動運転機能**※2
自動車線維持、自動駐車、自動車線変更など
 - ③ **排ガス関係装置**

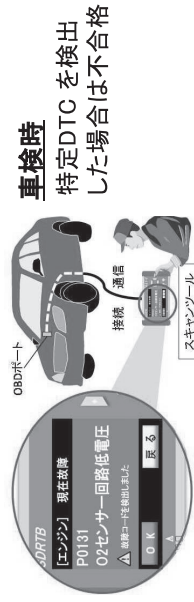
- ・故障コード読出に必要な技術情報(EGU情報)
- ・保安基準不適合の故障コード(特定DTC)

自動車メーカー



提出

(独)自動車技術総合機構において、「ECU情報」、「特定DTC」を一元管理し、全国の車検場、整備工場へ提供。



車検時

特定DTCを検出した場合は不合格

対象車両・装置及び検査開始時期

検査開始時期

- 2024年※3
- ※1 認証を受けた自動車に限る。輸入車は2022年以降の新型車
 - ※2 保安基準に規定があるものに限る。
 - ※3 輸入車は2025年

指定工場のみなさま

車の安全と未来のために はじまる! OBD検査

プレ運用
令和5年10月～

OBD検査開始
令和6年10月～

※輸入車は令和7年10月～

? OBD検査プレ運用とは

- ☑ OBD検査開始前の練習期間です。
- ☑ 検査の合否には影響しません。



指定工場は、OBD検査の準備が必要です。



早めに準備をしてプレ運用期間にOBD検査の練習をしてください。
プレ運用への積極的な参加をお願いします。

▶▶▶ 3つの準備が必要です



OBD検査システムへの
事業場・利用者登録をすること



特定DTC照会アプリを
インストールすること

システム登録、アプリインストールの方法はこちら ▶



検査用スキャンツールを
備えること

検査用スキャンツールの情報ははこちら ▶



(一社)日本自動車機械工具協会



認証工場のみなさま

車の安全と未来のために はじまる! OBD検査

プレ運用
令和5年10月～

OBD検査開始
令和6年10月～

※輸入車は令和7年10月～

？ OBD検査プレ運用とは

- ☑ OBD検査開始前の練習期間です。
- ☑ 検査の合否には影響しません。



持込検査では **検査職員がOBD検査を実施します。**



持込検査時の検査場でのプレ運用に
ご協力をお願いします。

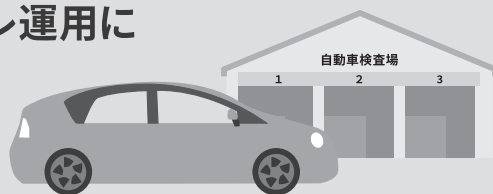


義務ではありませんが
指定工場と同じ準備をすれば
次のメリットがあります。

『OBD確認』をすることができます。

OBD確認
をすれば・

- ☑ 受検前に判定結果を確認できます。
- ☑ 検査場でのOBD検査が原則、省略されます。



OBD確認とは 入庫の際や持込検査の前に不適合箇所がないか確認できるサービス機能です。

🚗 OBD検査が必要な車は

令和3年10月(輸入車は令和4年10月)以降の
ニューモデルから対象、それ以外は対象外



車検証の備考欄に
「OBD検査対象」と
記載があります。

⚠️ 記載があっても以下の場合は検査不要です

- ▶ 検査日が令和6年9月30日以前(輸入車は令和7年9月30日以前)
- ▶ 検査日が型式指定年月日から2年を経過していない
- ▶ 検査日が初度登録年月または初度検査年月の前月の末日から起算して10ヶ月を経過していない

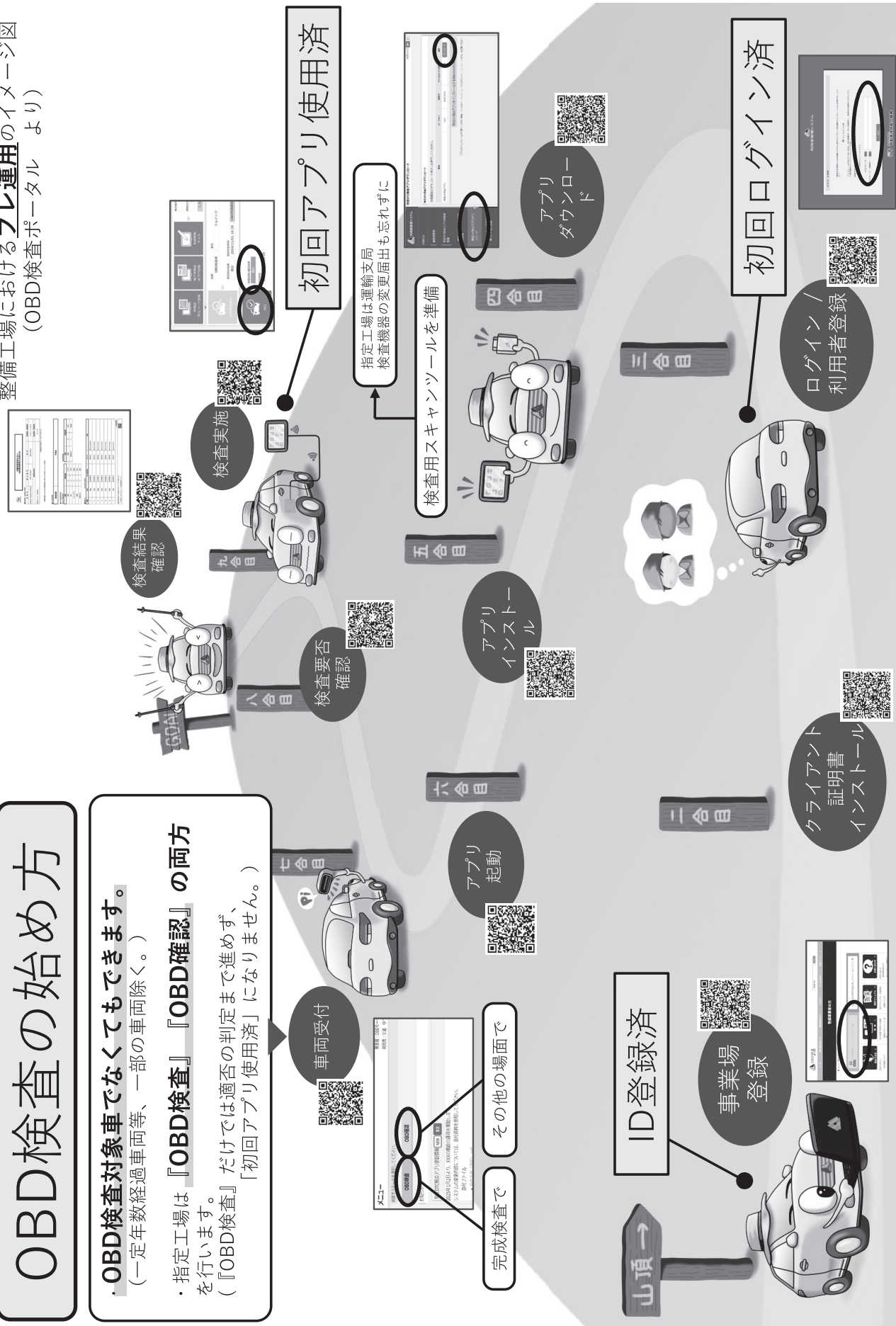


OBD検査の始め方

・OBD検査対象車でなくともできます。
(一定年数経過車両等、一部の車両除く。)

・指定工場は『OBD検査』『OBD確認』の両方を行います。
(『OBD検査』だけでは適否の判定まで進めず、『初回アプリ使用済』になります。)

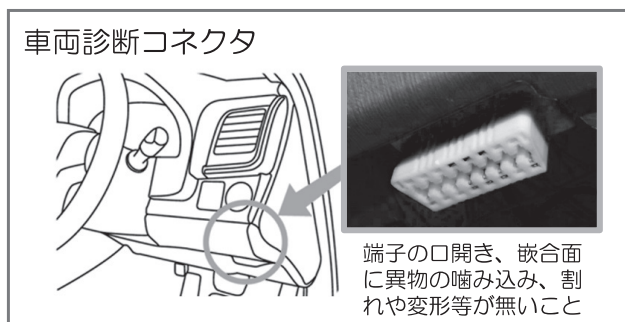
整備工場におけるプレ運用のイメージ図
(OBD検査ポータル より)



《OBD 検査／確認を実施する際にご注意いただきたいこと》

OBD 検査／確認を実施する際は、各整備工場にて車両診断コネクタへ車両通信インターフェース (VCI) コネクタを確実に接続する必要があります。確実に接続するためには、以下の点にご注意ください。

- ・接続する前に、車両診断コネクタ/VCIコネクタに端子折れや曲がり、端子の口開き、コネクタ嵌合面に異物噛み込み、割れや変形等、嵌合不良を生じる不具合が無い点検すること。



- ・VCIコネクタを車両診断コネクタにしっかりと奥まで差し込むこと。

※特定DTC照会アプリ操作マニュアルに記載されているように、特定DTC照会アプリにてOBD検査要否確認後、VCIを車両診断コネクタへ接続する前に車両の電源がOFFであることを確認してください。接続後、車両のエンジンをON (ハイブリッド車等はREADY) してください。



嵌合面に対して垂直に奥まで差し込む (ラッチがかかる事を確認すること)

- ・OBD検査/確認中、VCIコネクタに膝等をぶつけたり、VCIコネクタケーブルに足を引っ掛けたりしないこと。



膝等を VCI コネクタへぶつけないようにスペースを確保の上、作業して下さい

- ・VCIコネクタは確実な抜き差しを行っていたとしても繰り返しの使用によりコネクタ嵌合面等に摩耗等が発生し、接触不良を引き起こす可能性があります。

このため、OBD検査/確認を確実に実施するためには、使用状況より判断し、必要に応じて交換等の対応が必要となります。

- ・車両診断コネクタとVCIコネクタ間で接続不良が生じると自動車の車載システムと通信できず、OBD検査/確認で必要となる故障コード（DTC）を自動車から読み出せません。
- ・また接続不良に伴い、車載システムとVCI間で通信異常が発生した場合、一部のOBD検査対象車*では、車載システムが一時的に異常を検出し、警告灯が点灯したり、DTCを検出する可能性があります（故障ではありません）。
- ・その為に、車両診断コネクタへ車両通信インターフェース（VCI）コネクタを確実に接続する必要があります。
- ・万が一、接続不良が要因で警告灯やDTCを検出したことが考えられる場合は、サービスマニュアルに沿って適切な処置をお願いします（車両、警告灯、DTC等の状態確認、DTC消去等）。

（*一部のOBD検査対象車）

自動車メーカー	商品名	備考
スズキ（株）	アルト	
マツダ（株）	キャロル	スズキ・アルトのOEM供給車
いすゞ自動車（株）	ギガ	

《プレ運用実施にあたって》

車両診断コネクタとVCIコネクタ間の接続不良に伴い、車載システムとVCI間で通信異常が発生した場合、一部のOBD検査対象外の車両では、車載システムが一時的に異常を検出し、警告灯が点灯したり、DTCを検出する可能性もあります（故障ではありません）。接続不良が生じて、警告灯点灯、DTC検出の可能性が無い車両は下記の通りです。

自動車メーカー	対象車両	見分け方
トヨタ自動車（株）	2017年以降の「Toyota Safety Sense（レクサスはLexus Safety System+）」もしくは「プリクラッシュセーフティシステム」を搭載する車両	搭載有無の見分け方は、「修理書や取扱い説明書」もしくは、「実車でフロントガラスへのカメラ装着有無」で確認可能
	OEM車 86（21MY以降の車両）、ライズ/タンク/ルーミー/ピクシスジョイ/ピクシスメガ/ピクシスバン/ピクシストラック/タウンエース/パッソ（2020年12月以降の車両）	
本田技研工業（株）	2020年以降のフルモデルチェンジ、ニューモデル車	
日産自動車（株）	日産カーラインナップでビジネスカーにラインナップしている車両を除く、2020年12月以降の車両	https://www.nissan.co.jp/CARLINEUP/

(株) SUBARU		「Eyesight」最新版、「SUBARU Safety Sense」を搭載する車両 ※BRZは上記Eyesightの最新版の装着有無ではなく、21MY以降の車両	Eyesight最新版の外観上の見分け方 ・カメラがフロントガラスについている(カメラの個数によらない) ・カメラの切り口が三角となっている
	OEM車	ジャスティ/ステラ/サンバーバン/サンパートラック/シフォン/レックス(2020年12月以降の車両)	
マツダ (株)		最新版のマツダコネクタ搭載車両	https://www.mazda.co.jp/carlife/mazda-connect/v2/
	OEM車	・フレア/フレアワゴン/フレアクロスオーバー/ボンゴバン/ボンゴトラック(2020年12月以降の車両) ・「プリクラッシュセーフティシステム」を搭載するファミリアバン/ボンゴブローニイバン(2018年6月以降の車両)	
三菱自動車工業 (株)		デリカD5、タウンボックスを除く、21MY以降の乗用車の車両	
スズキ (株)		スペーシアベース、キャリイ、エブリイ/エブリイワゴンを除く、2020年12月以降の車両	
	OEM車	・ランディ(2021年以降、2022年6月までの車両) ・ランディ(「Safety Sense」を搭載する2022年7月以降の車両)	
ダイハツ工業 (株)		ミライース、コペンを除く、2020年12月以降の車両	
三菱ふそうトラック・バス (株)		・4気筒エンジンの中型トラックを除く、2020年以降のトラック ・大型路線バスを除く、2020年以降のバス	https://www.Mitsubishi-fuso.com/ja/products/
日野自動車 (株)		・2017年7月以降の大型トラック/中型トラック/大型観光バス ・「プリクラッシュセーフティシステム」を搭載する2017年以降の小型観光バス ・2tクラス・電気自動車を除く、2021年10月以降の小型トラック/中型観光バス ・2022年6月以降の電気自動車の小型トラック	https://www.hino.co.jp/products/
UDトラック (株)		・2017年4月以降の大型トラック ・2020年以降の小型トラック	https://www.udtrucks.com/japan
いすゞ自動車 (株)		・2017年7月以降の大型観光バス ・2021年10月以降の中型観光バス	https://www.isuzu.co.jp/product/